

BEST AVAILABLE COPY

⑨ 日本国特許庁 (JP) ⑪ 特許出願公開
⑫ 公開特許公報 (A) 昭58—128526

⑩ Int. Cl.³
F 16 C 29/06

識別記号

庁内整理番号
6907-3 J

⑬ 公開 昭和58年(1983)8月1日

発明の数 1
審査請求 有

(全 6 頁)

④ 転がり案内軸受の調心装置

② 特願 昭57—8998
② 出願 昭57(1982)1月25日
⑤ 特願 昭56—199482の追加
⑦ 発明者 井沢実
東久留米市氷川台2丁目27番5
号
⑦ 発明者 津田達雄
東京都練馬区土支田2丁目28番

19号日本特殊ベアリング株式会
社内
⑦ 出願人 日本特殊ベアリング株式会社
東京都練馬区土支田2丁目28番
19号
⑦ 出願人 井沢実
東久留米市氷川台2丁目27番5
号
⑦ 代理人 弁理士 神保勉 外1名

明細書

1. 発明の名称 転がり案内軸受の調心装置
2. 特許請求の範囲

ガイドレールには転動体転動グループを成形し、このガイドレールに組合わされる転がり案内軸受を次の(1)の構成としたことを特徴とする転がり案内軸受の調心装置。

(1) 断面形状下向きコ字形に成形された軸受本体には、嵌合組合わされるガイドレールの転動体転動グループに合致する位置に開口した断面形状O形の円形溝を軸受本体の両端にわたって成形し、この溝に内接し、しかも回転する直徑を有する、両端を半球状にした丸棒の両側には転動体転動グループを背合せに成形し、この両グループの連結路は半球部に成形し、これらグループ及び連結路よりなる転動体導導路には多数の転動体を充填して丸棒をO形溝に嵌合し、更に、この丸棒の両端半球部は軸受本体両側に取付けられるエンドキャップにO形溝と同心的に成形された半球状保持穴に回転自在に嵌合し

又、丸棒周側にして転動体転動グループ両側に一対宛、丸棒の前後に成形した凹部には、軸受本体にネジ込み取付けたビスの尖端を当接してなる転がり案内軸受。

3. 発明の詳細な説明

この発明は、ローラー又はボールを使用する転がり案内軸受の調心装置の改良創作に係るものである。

本発明者が先に開発した転がり案内軸受の調心装置は、転動体転動グループを軸方向に平行に成形したガイドレールに嵌合組合わされる転がり案内軸受を、軸受本体を断面形状下向きコ字状としガイドレールの転動グループに対応する位置に開口する断面形状O形の円形溝を軸受本体の両端にわたって成形し、別に、この溝に嵌合され、しかも回転する直徑を有する丸棒が用意され、この丸棒の両端面には両端にわたって転動体転動グループが背合せに成形され、この丸棒が上記溝内に嵌合されるものであり、この丸棒の転動グループの連結路は、丸棒の両グループにわたって成形され

特開昭58-128526(2)

第2に、丸棒の両端半球部を軸受するよう保持するため、軸受本体の両側に取付けられるエンドキャップに半球状の保持穴を成形したこと。

第3に、丸棒の転動体転動グループを挟んで凹部を丸棒の前後に一对二組成形し、この凹部に対応して軸受本体にビスをネジ込み取付け、このビスの尖端を凹部に夫々当接して片側のビスを始め他方のビスを締めることにより丸棒の転動グループに充填した転動体を丸棒と共に移動して転動体の回心作用を行なわせ、且つ両側のビスを緊結することによつてその位置に丸棒を固定できるようにしたものである。

従つてこの発明においては従来品の如く丸棒を操作するための軌を必要としない利点があり、又転動体の連絡路を構成する上においても丸棒端に張り出しを成形し、軌の跡に嵌合し、両者の高さ及び深さの差によつて構成するような工作上の不便さを解消したものであり、転がり案内軸受とガイドレールの嵌合組合せの場合の回心作用を簡単に、しかも確実に実現できるものである。

た曲面状の張り出しと、エンドキャップに嵌合された円形の軌端に成形された曲面状の跡との組合せにより張り出しの高さと跡の深さの差により構成され、しかもこの丸棒と軌とは一体的に回転可能なように軸受本体の両端に取付けたエンドキャップにO形溝と同心的に穿設した孔に上記軌が回転自在に嵌合され、軌の周囲にリング状跡を成形し、この跡に対しエンドキャップ側面よりネジ込み取付けたビスの尖端を当接し、軌の緊結とエンドキャップにより軌の脱落することを防止する構成とし、又、丸棒の両グループ及びこれが連結路よりなる循環路には多数の転動体を充填し、この転動体の循環路外に脱落することを防止するためにO形溝の開口にはリテナーを止着してなるものである。

この発明は上記の如き改良の対象となる構成に対する次の点を改良したものである。

第1に、丸棒の両端を半球状に成形し、丸棒両側及び両端にわたつて転動体の転動する循環路を跡状に成形したこと。

実施例 (一)

第1図乃至第8図に示す如く、この実施例はボールを使用する転がり案内軸受の調心装置を示すものである。

断面形状四角形のガイドレール(a)の頂上には平行に二条のボールグループ(I)が、又両側には対称位置に一系宛のボールグループ(I)が成形される。

上記ガイドレールに嵌合組合せされる転がり案内軸受は、断面形状下向きコ字形の軸受本体(b)よりなり、ガイドレール(a)の各ボールグループ(I)に対応する位置には夫々開口したO形の真円に近い跡(2)が軸受本体(b)の両端にわたつて成形され、別に、この跡に嵌合され、しかも回転可能な直徑を有する丸棒(b)が用意され、この丸棒(b)の両端は半球(b')に成形される。この丸棒の両側面には背合わせにボールグループ(3)(3')が成形され、更にこの両グループ(3)(3')の連絡溝(4)が夫々丸棒の両端半球部(b')に成形されてボールの循環路が構成される。又この丸棒(b)はボールグループ(3)を挟んで一对宛二組の凹部(5)が丸棒の

前後に成形される。この丸棒(b)はボール循環路に多数のボール(b)を充填して各O形跡(2)に嵌合され、更に、軸受本体(b)の両端に取付けられるエンドキャップ(E)には丸棒(b)の半球部(b')を軸受状に保持する保持穴(6)が半球状にO形跡と同心的に成形される。

軸受本体(b)はエンドキャップ(E)を取付けてO形跡(2)に嵌合した丸棒(b)の両端半球部(b')を保持穴(6)に回転自在に嵌合する。

又、循環路よりボール(b)の脱落を防止するためにO形跡開口にはリテナー(7)が適宜手段により止着される。

又、丸棒(b)の固定及び転動をはかるために丸棒(b)に成形された一对宛二組の凹部(5)毎に対応して軸受本体(b)にはビス(8)がネジ込み取付けられ、尖端が夫々当接される。

この実施例は上記の如く構成されるものであるから、転がり案内軸受本体(b)とガイドレール(a)の調心をはかる場合には丸棒(b)を固定してあるビス(8)を弛めて軸受本体(b)をガイドレール(a)に

特開昭58-128526 (3)

両側のポールグループはそのままにする。

上記ガイドレール (a') に嵌合組合わされる軸がり案内軸受は、軸受本体 (b') の内側底部にローラー (R) が嵌着され、ガイドレール (a') の両側のポールグループ (l) に対応する位置には上記第一実施例の調心装置が嵌着されるものであるから、同一符号を図示し説明は省略し、併設されるローラーの調心装置について述べる。

ガイドレール (a') の頂上平坦面に接する側に開口する断面形状O形にして真円に近い溝凹が軸受本体 (b') の両端にわたって成形され、これには両端を半球 (B₂) に成形した丸棒 (B₁) がその直径をO形溝凹に内接し、しかも回転する直徑に構成する。この丸棒 (B₁) の両側には背合せにローラーグループ (11)(11') が成形され、半球 (B₂) 部分には両グループの連絡溝凹が成形されてローラー (R) の循環路が構成され、軸受本体 (b') に取付けられるエンドキャップ (E) にも上記丸棒 (B₁) の半球 (B₂) 部分を軸受状に保持する保持穴凹がO形溝凹と同心的に半球状に成形され、丸棒 (B₁) の循環路にロー

対し軸方向運動すれば、丸棒がO形溝内において円周方向に回転し、しかも、この回転はガイドレールに対応する軸がり案内軸受の調心作用となるものであり、ガイドレール軸受とグループの位置が多少ずれていても、又、偏心荷重の場合でも調心作用を呈し、常にガイドレールに対し軸受を安定した關係に置くことができ、ポールガイドの特性を充分發揮できるものである。

又、個々の丸棒の調整の場合には一对二組ビス止めされてある片側のビスのみを弛めておき、他方のビスを締めることにより丸棒を何れかの方向に微動できるので、個々の調心の上において便利な構造である。

実施例 (二)

第9図乃至第13図に示す如く、この実施例はローラーとポールによる軸がり案内部を併設した軸がり案内軸受の調心装置を示す。

ガイドレール (a') は第一実施例において頂上に成形した二条のポールグループ (l) を設けないでローラー (R) の軌道面として平坦に構成する。

ローラー (R) を多数充填してO形溝凹に嵌合した際、エンドキャップ (E) の保持穴凹に丸棒 (B₁) 端が保持され、ローラー (R) の循環を行なわせる構造としてある。

ローラー (R) の軸線両側には頭部を半球状にしたピン部 (R') が突設され、このピン部 (R') を保持してローラー (R) が循環路より脱落することを防止するためにリテーナー端がO形溝凹の開口に適宜手段により止着される。

この実施例は上記の如く構成されるものであるから、ポール (B) の調心は第一実施例と同様にビス (B) を弛めて行なわせるものである。又、ローラー (R) のガイドレール軌道面の傾斜などに従う調心機能は、ローラーグループを成形した丸棒 (B₁) がO形溝凹内に自由に遊嵌されており、しかもローラーはガイドレールの平坦面に接して転動するためにローラーとポールという異質の転動体を用いた軸がり案内部分を一つの軸がり案内軸受中に併設しても、その個々の調心機能は正確に実施できるものである。もつともこのローラ軸がり案内

軸受の場合はポールの軸がり案内軸受と相違し、O形溝に対する丸棒の遊びは若干大きく取る必要があり、丸棒を固定するためのビスは必要としない構造上の差違はあるが、丸棒の回転によるガイドレール軌道面の状態に対応する調心能力機能は同一である。

4. 追加の関係

この発明は、ガイドレールに嵌合組合わされる軸がり案内軸受の軸受本体に断面形状O形の円形の溝を軸受本体の両端にわたって成形し、これに内接回転する直徑を有する丸棒の両側に背合せに転動体転動グループを成形し、両端の連絡路と共に転動体の循環路を構成し、この循環路に多数の転動体を充填してO形溝内において丸棒と転動体を一體的に回転自在に構成して軸がり案内軸受の調心をはかる昭和56年特許第199482号軸がり案内軸受のO形溝内において丸棒を回転自在に構成した点を使用しなければ実施できないものであり、この発明においてはエンドキャップに丸棒端を保持するために、丸棒端を半球状に成形し

これには両グループ連絡路を成形し、又エンドキャップには丸棒の半球部が回転保持される半球状保持穴を成形してなるものである。

5. 図面の簡単な説明

第1図はこの発明の転がり案内軸受の平面図、第2図は同上一部切欠き側面図、第3図はエンドキャップを取り外し、ポールの一部を省略した状態の一部切欠き正面図、第4図は丸棒の平面図、第5図は同上側面図、第6図は同上底面図、第7図は同上説明斜視図、第8図はエンドキャップの説明斜視図、第9図はこの発明の転がり案内軸受の第二実施例の一部切欠き側面図、第10図はエンドキャップを取り外し、ローラー及びポールの一部を省略した状態の正面図、第11図は丸棒の平面図、第12図は同上一部切欠き側面図、第13図は同上底面図である。

尚、図中符号 (a)…ガイドレール、(1)…ポールグループ、(b)…軸受本体、(2)…C形溝、(6)…丸棒、(8')…半球、(3)(3')…ポールグループ、(B)…ポール、(E)…エンドキャップ、

特開昭58-128526 (4)

(4)…連絡溝、(5)…凹部、(6)…保持穴、(7)…リテナー、(8)…ビス、(a')…ガイドレール、(R)…ローラー、(8')…軸受本体、(10)…C形溝、(8₂)…丸棒、(8₃)…半球、(11)(11')…ローラーグループ、(12)…連絡溝、(13)…保持穴、(R')…ビン部、(14)…リテナー、である。

特許出願人

日本特殊ペアリング株式会社

(外又名)

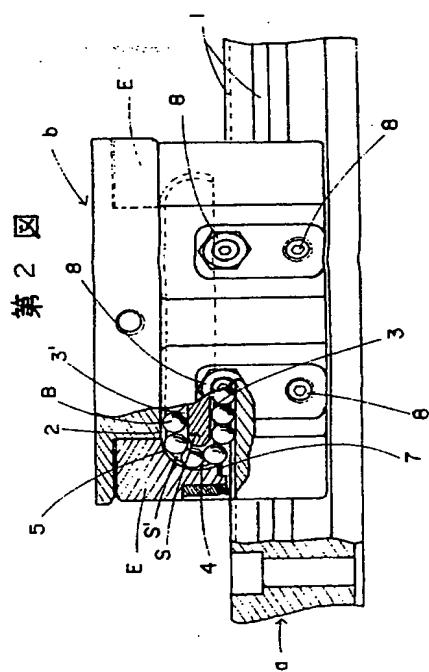
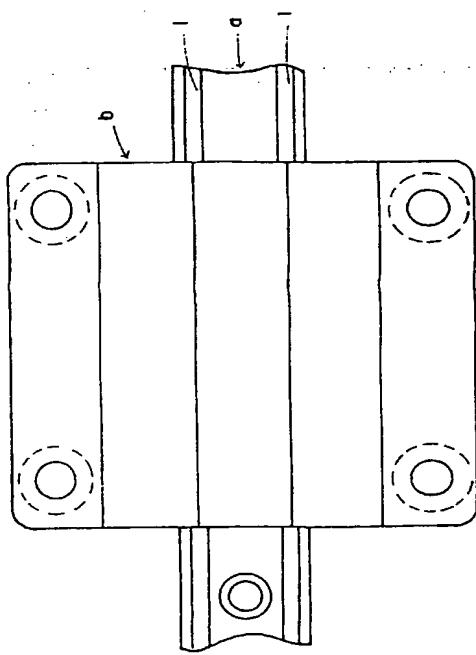
代理人

神保勉

(外又名)



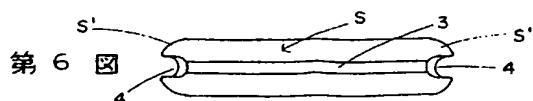
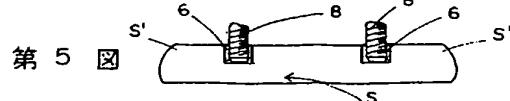
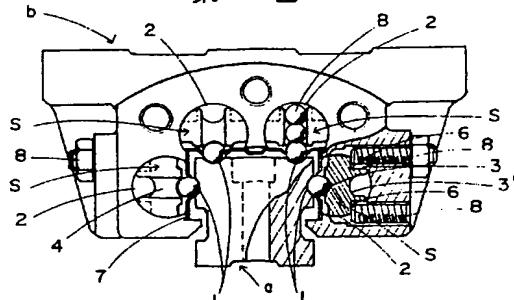
図一 第



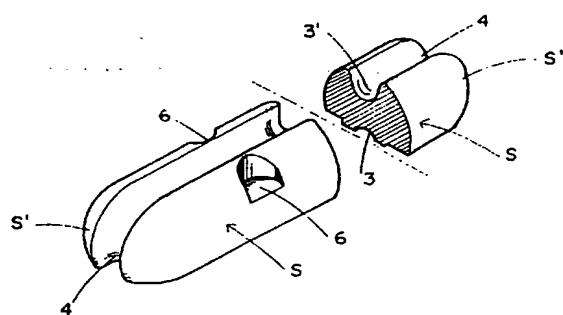
BEST AVAILABLE COPY

特開昭58-128526(5)

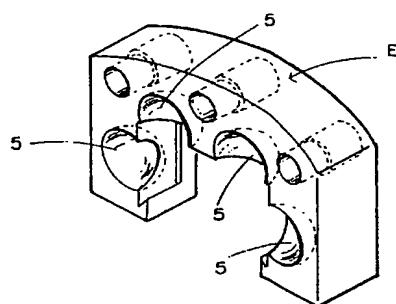
第3図



第7図



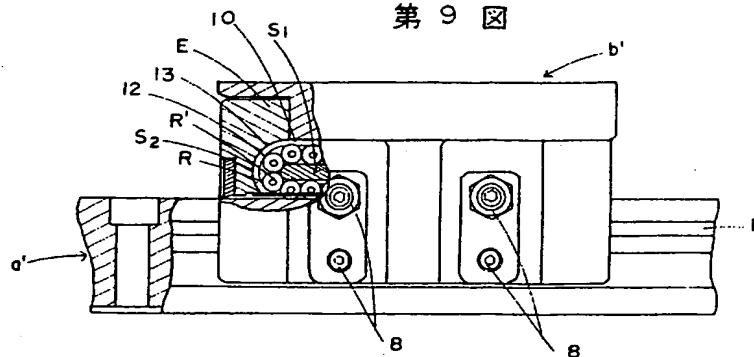
第8図



BEST AVAILABLE COPY

特開昭58-128526(6)

第9図



第10図

